

およそ 30 年にわたる知床の各種研究成果が蓄積され、なおかつ最新の情報が集約されている、ここ知床博物館。多くの原稿の〆切に追われつつも、お互いの研究分野を尊重しながら熱く議論を交わす 4 人のエキスパート達は、斜里町の自然・人文科学研究の最先端である。

『町民の宝』知床博物館

1 年間の研修で、知床博物館は町民の方々に親しまれていることがわかりました。それは、古い道具、珍しい魚や昆虫、時には交通事故にあった動物が持ちこまれることが多く、「とりあえず博物館へ」という、町民の方々の行動からです。これらは、博物館が地域に根ざしている証拠であり、その結果、貴重な資料や情報が博物館に集約され、さらに価値を高めています。その情報や資料は、町民の共有財産として誰もが活用できるのです。

毎週のように博物館に来館される小学生や親子連れの方がいらっしやいます。博物館は憩いの場でもあります。静かな雰囲気の中でゆっくりとくつろぐことができるのも博物館の良さです。

多くの町民の方とのふれあい

博物館で広がったのが、人のネットワークです。学校にいただけではお会いすることのなかった、様々な分野の専門家の方々や地域の方々、とりわけ、鉄道展に関連し

て多くの皆様の協力をいただくことができました。これからも何かの機会にお世話になるかもしれません。今後ともよろしく願い申し上げます。

博学連携

4 月からは学校現場にもどり、この 1 年間の研修成果を授業に生かしていきたいと考えています。博物館と学校教育が連携して、斜里町の子どもたちを育む実践をしていきたいと思ひます。

町内や近隣の教職員の方には、総合的な学習の時間・生活科や理科、社会科の地域教材などの学習の際に知床博物館を活用できることをお知らせします。さらに、専門分野をより深く学びたい方など、博物館で研修をしたいとお考えの教職員の方へ、今後とも研修員も受け入れていただけるそうです。ぜひどうぞ。

1 年間、みなさまには大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

一年間の研修ご苦労様でした。

宮内さんにはこの 1 年の間、博物館の行う様々な活動—展示物の作成、出版物の編集、講座の運営、展示の解説、子供たちや町民の学習相談への対応などなど、学芸員と一緒に幅広く取り組んでいただきました。特に宮内さんの研究分野（交通史）を最大限に生かした旧国鉄根北線など斜里の鉄道に関する資料の収集と展示物の作成、刊行物の編集などに力を発揮していただきました。また、子供たちの足を博物館へ向けるための企画を具体的に展開され、私たちも大変勉強になりました。あっという間の一年でしたが、博物館で得ることのできた内容が再び学校教育の中で生かしていただければ幸いです。ありがとうございました。（中川 元）



「夏休み小学生クイズラリー」で子供たちと接する宮内さん

斜里高等学校「知床自然概論」成果発表会が開催されました

—昨年スタートした斜里高等学校総合学科の選択科目「知床自然概論」の受講生徒による発表会が今年も博物館で開催されました。この授業には当館学芸員や役場の専門職員のほか博物館との共同事業で来町された北海道大学の 3 人の先生方も講師として参画しています。博物館の骨格標本や剥製を教材に使ったり、斜里川や海岸林など野外に出て観察や調査活動をするのもこの科目の特徴です。すでに 3 年生は卒業式を終えていますので、2 年生が 3 年生の作成したプレゼンテーションを引き継いでの発表もありました。最初に「授業の全体紹介」があり、続いて「魚類」「植物」などテーマ毎に 5 つの発表がありました。写真や図を多用して短くわかりやすくまとめられていました。来場した町民の皆さんからも質問や意見が多数出されましたが、発表者は一生懸命考え、答えていたことが印象に残りました。難しい質問もありましたがそれは生徒の発表のレベルが高く一人前だったからでしょう。「エゾシカ」の問題では来場者から質問や意見、現

状の説明などが出されて、町の難しい課題を一緒に考える場にもなりました。楽しい意見交換で盛り上がった発表会は予定時間をかなりオーバーして終了しました。発表の準備、そして大勢の人の前での本番と、一生懸命がんばった生徒の皆さん、本当にご苦労様でした。（中川 元）



発行 斜里町立知床博物館協会 2007.3.22
099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49
斜里町立知床博物館内
TEL:0152-23-1256 FAX:0152-23-1257